

1. 2013年度報告

1. 学部・大学院一貫の質の高いカリキュラム

①新カリキュラムの実施

(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの連動

ディプロマ・ポリシーと連動したカリキュラム・ポリシーを細かく設定し、カリキュラム・ポリシーに沿って具体的な科目を設置した。

(2)初期教育の充実（人間科学部）

- ・リテラシー科目群：スキルの修得を主眼とし、主に1・2年次教育において共通基礎力の養成を担う。
- ・人間科学基礎科目群：人間及び「人間科学」を理解するための基盤の形成を担う。
- ・人間科学教養科目群：社会の中での自己の役割やあり方を認識し、より高い次元で人間存在と現実を理解する力の獲得を目指した知的訓練を行う。

(3)「学際性」と「専門性」のバランスのとれた積み上げ型カリキュラム（人間科学部）

(4)学部教育を土台とした大学院修士課程のカリキュラム（人間科学研究科）

②カリキュラムの見直し

2013年度には、初期教育の具体的な内容および実施体制を細かく検討した上で授業を実施し、授業終了後に結果を評価して改善するべき点を洗い出した。また、各科目のシラバス、科目間のシーケンス、時間割などについても問題点を検討し、カリキュラムの完成度を上げていく作業を行なった。

③オンデマンドコンテンツの利用方法の検討

学部教育および大学院教育におけるオンデマンドコンテンツの利用方法を検討した。

2. 安定した入試制度

①2014年度入試の「数学選抜入試」の導入

2014年度入試からセンター試験及び数学の記述試験を合わせた「数学選抜入試」を導入した。その結果、当初の目的どおり、理系学生のリクルートにつながる入試としてスタートさせることができた。

3. 戦略的な研究推進

①研究推進委員会の設置

学術院内に研究推進委員会を設置し、研究推進の方向性について議論を開始した。

②人間総合研究センターの事業の活性化

人間総合研究センターの事業として、2013年度から以下のような戦略的プロジェクト方式を導入した。

【種別】

(1)企画準備プロジェクト（A プロ）：大型競争的研究資金を獲得するための助走・準備的な研究資

金を支給するプロジェクト。

(2)大型研究支援プロジェクト (B プロ) :人間科学学術院専任教員が獲得した大型競争的研究資金による研究プロジェクトを、より効果的・効率的に推進できるように支援するもの。

(3)一般研究プロジェクト (C プロ) :自由な課題設定による研究プロジェクトであるが、人間科学学術院の研究方向や人間科学研究科の教育方向に資するものが望ましい。

【審査・評価】企画準備プロジェクトと一般研究プロジェクトの審査に関しては原則として学外あるいは学内他箇所の有識者を審査委員としてお願いした。全ての研究プロジェクトの中間あるいは終了の時点でその評価を行う。

③研究と教育の連携

大学院カリキュラムの中に研究成果への還元を目的としたプロジェクト科目を設置した。

4. 学内外との連携の推進

①地域連携の組織化

所沢市との地域連携を行なってきた教員の懇談会を実施し、これまでの実績を集約して意見交換する機会をもった。

5. 人間科学学術院の将来の方向性の検討

①将来構想委員会の設置

人間科学学術院（人間科学部（通学制・通信制）、人間科学研究科、人間総合研究センター）の将来の課題や目標について様々な角度から検討を加え、今後の方向性を考えるために、中堅・若手教員を構成メンバーとする将来構想委員会を設置し、議論を開始した。

2. 2014年度計画

1. 学部・大学院一貫の質の高いカリキュラム

①新カリキュラムの実施

2年次の初期教育の実施（人間科学部）

②カリキュラムの見直し

2014年度には、2年次の初期教育の具体的な内容および実施体制を細かく検討した上で授業を実施し、授業終了後に結果を評価して改善すべき点を洗い出していく。また、引き続き各科目のシラバス、科目間のシークエンス、時間割などについても問題点を検討し、カリキュラムの完成度を上げていく作業を行なう。

③オンデマンドコンテンツの利用方法の検討

学部教育および大学院教育におけるオンデマンドコンテンツの利用方法を検討した結果、基本的には対面の授業実施を条件とするが、予習・復習の促進や授業時間内の教材の一部としてオンデマンドコンテンツを利用できるという方針に基づいて、学部・大学院のルールを策定した。

2. 安定した入試制度

「数学選抜入試」の導入により、指定校推薦入試の見直しを行う。

3. 戦略的な研究推進

①研究推進委員会

学術院内に設置した研究推進委員会において、引き続き研究推進の方向性について議論する。

②人間総合研究センターの事業の活性化

大型競争的研究資金を獲得するための助走・準備的な企画準備プロジェクト（Aプロ）や、獲得した大型競争的研究資金を支援する大型研究支援プロジェクト（Bプロ）につながる、大型競争的研究資金獲得のための戦略を検討する。

③研究と教育の連携

大学院カリキュラムの中に研究成果への還元を目的としたプロジェクト科目の充実を検討する。

4. 学内外との連携の推進

①「人間科学学術院人間科学会」の設立

学部・大学院の「人間科学会」を統合し、「人間科学学術院人間科学会」を設立する。これを学術的活動とともに社会的活動やネットワーク形成などの学内外連携にも利用する。

②学内外連携委員会（仮称）の設置

学術院の学内外との連携活動を取りまとめ、また学内外との連携の推進の方向性を議論する学内外連携委員会（仮称）の設置を検討する。

5. 人間科学学術院の将来の方向性の検討

①将来構想委員会の答申

人間科学学術院（人間科学部（通学制・通信制）、人間科学研究科、人間総合研究センター）の将来の課題や目標について様々な角度から検討を加え、今後の方向性を考えるために設置した将来構想委員会がその結果を教授会に答申する。

②具体的な計画の検討

将来構想委員会の答申を受けて、具体的な計画の検討を開始する。